

ナイツ&スレイヤー
ズ！～銀鳳の騎士と金
鳳の魔導師～

タカヒロオー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

冥王のポカにより身体を喪ったリナと愉快な仲間たち（笑）は〈金色の魔王／＼様〉に導かれ新しい世界へ転生する。

果たしてリナたちは機械の騎士と魔獣が闘うこの世界に何をもたらすのか？

そしてリナと姉弟となつてしまったエルネステイの運命はいかに（笑）？

※見てのとおりナイツ&マジック（以下N&M）とスレイヤーズ！のクロスです。

※スレイヤーズキャラクターが憑依する為、一部N&Mのキャラクターの性格が崩壊します。

※苦手な方はブラウザバックを推奨します。

目次

プロローグ①くりナ、新たなる世界へ

1

プロローグ①　リナ、新たなる世界へ

プロローグ

S I D E : リナ

…あたしが目を醒ますとそこは何も無い空間だった。

(ここは何処…それにあたしは…?)

(リナ…リナなのか?)

声のした方を振り向くとそこにいたのはあたしの旅の相方、ガウリイ・ガブリエフ。

でも…

(あれ…あんた、何か透けてない?)

そう、ガウリイの身体はまるで幽霊のように透き通っていた。

(何言ってるんだリナ、それを言ったらお前もだろ?)

えっ?

そう言われて自分の身体を確認すると確かにあたしも実体を喪っていた。

(な、なんで? 一体何があったの?)

(…覚えてないんですかりナさん?)

そこに現れたのはシルフィール・ネルス・ラーダ。ガウリーの昔の知り合いでサイラーグ・シテイの神官を…ん、サイラーグ?…あ。

(思い出した…あたしとシルフィール、それにゼルとアメリカは魔王シヤブラニグドウの側近、冥王フィブリゾに捕らえられたガウリーを助けるためにサイラーグへと乗り込んだ。)

そしてフィブリゾにガウリーを殺されそうになって、咄嗟にへ重破斬／ギガ・スレイヴの完全版を使って…)

(はい。結果として術の制御に失敗したりリナさんの身体を乗っ取ったへ金色の魔王／ロード・オブ・ナイトメアへは誤って攻撃したフィブリゾを殲滅しました。でも…)

…皆まで言わなくていいわ。抑えきれなくなった膨大な魔力が暴走して世界は滅んだ…でしよ?)

(ああ…残念ながらそうみたいだな。)

(うう…もう正義の拳を奮えないなんて…どうしてくれるのよりナ?!)

…ゼル、アメリカ!そっかあんたらも巻き込まれて…ごめん。

(ふふ、冗談よりナ。もし同じ状況でゼルガデイスさんが捕まっていたら…何としてでも助けようとしてたと思うから。)

(な…アメリカ、それは一体…?)

はいはい、イチャイチャは後にくれる?

(…っていうかここは何処なのよ?あの世って訳でも無いみたいだし…)

『…ここは〈混沌の海〉。このあたし〈金色の魔王／ロード・オブ・ナイトメア〉の胎内にして、この世界の始まりの場所…』

…?!

突如響いた声にあたしたちは辺りを見回す。

『こつちだよこつち。…こうやって話をするのは初めてだね、リナ・インバース。』

あたしたちの前に姿を顕したのは年の頃10歳ぐらいの美少女。少し癖のある茶色い髪に控え目な胸…って?

(なんだ、リナ…妹がいるならいると…?)

…違うっ!あたしには姉ちゃんはいるけど妹なんていない!

だけど目の前にいる少女の姿は幼い頃のあたしそのものだった。

(…というか、自分で自分の事を美少女って普通は言わんぞリナ…)

うっさいゼル!…あたしも自分で言っつて恥ずかしいんだから。

それより…あんた本当にあの〈金色の魔王〉なの?それに…混沌の海って…?

『うん。…とは言ってもこれはあんたらと話をするためにとった仮の姿。あたしの正体

は…異界黙示録〈クレアバイブル〉に触ったりリナは解るよね。』

彼女(?)の言葉にわたしは頷く。

その言葉が本物なら…あたしたちが今いるのは全ての始まりの場所。そして〈金色の魔王〉の中心でもある。

(そんな…リナ、本当なのそれ?)

(にわかには信じられんが…信じるしかないんだろうな。)

(ん〜よく解らんが…敵じゃ無いんだろ?それならいいんじゃないか?)

3人が3人とも違う感想を洩らすアメリカ、ゼル、そしてガウリイ。

(…それで結局…あたしたちやこの世界はどうなんのよ?なんとなく予想はつくけどさ。)

『う〜ん、残念だけど世界を元に戻すことも、あんなたちを甦らせることもできないんだ。あのバカ冥王が余計な事したせいで全てリセットしちゃったから。』

ぬわんですって〜?!…あれ?でもそれじゃなんであたしたちの意識は残ってるの?
?

『それはね…あんなたちは〈選ばれた〉んだよ、〈新しい世界〉にさ。』

(…新しい世界だと?どういう事だ、金色の…)

『あ、その呼び方は止めてくれる？そーね…これからあたしの事はL様って呼ぶこといい？』

…確認するけど、あんたこの世界の産みの親みたいなものよね？威厳つてものは無いの、威厳つてものは?!

『別に偉そうにしても何も得しないし、これが素だからね。話を戻すけど、あたしは今から新しい世界を創り直してその世界にあんたたちを転生させようと思ってるんだよ。』

(えっ、それって…最初からやり直して事?)

あたしは疑問を言葉にする。転生という事は記憶は無くなるんじゃない?!

『本来はそうなんだけど、今回は特別だから5歳になったら記憶をすり合わせてあげる。それならいいでしょ?とりあえず魔法は使える世界にはするつもりだから。』

ま、仕方ないわね…みんなもそれでいい?

(わたしは正義の拳を奮えるならどこでも行きますよっ!)

(相変わらずだなアメリカは…俺もいくぞ。人間の姿には戻してくれるんだろう?)

(わたしも行きます。だってガウリイさまも…)

(ああ…俺はリナの保護者だからな。この世界は護りきれなかったが、今度こそは!)

な、何言ってるのよガウリイ?!

『ハイハイ、お暑いのはそれぐらいにして…それじゃ、新しい世界にご案内〜っ!』

Ｌ様の手から光が放たれ、シルフィール、アメリカ、ゼルの順に姿を消していく。そして…

(リナ…それじゃ次は新しい世界で。…じゃあな!)

ガウリイも光に消え、残されたのはあたし一人に。

それじゃ、つて…まだ知り合えるつて決まった訳でも無いのに…ガウリイらしいつて言えばそれまでだけどね。

『信じてんでしょ、あんたとの絆をさ。…ま、あたしの力でみんな出逢えるようにはしてあげるけどね。』

ほんとに?!

『ただ皆が皆そのままの姿や名前前で転生できないんだけど…出逢ったら判るようにはしとくわ。それじゃそろそろいいかな?』

Ｌ様の放った光があたしを包み込むと同時に、姿が薄れていく。

『あたしがいうのも何だけど…新しい世界で、頑張つてねリナ!』

(ありがと、Ｌ様。ドーせこつちの世界にも干渉するんでしょ?また逢えたらその時はよろしくね♪)

『…そうだね、またね。』

次の瞬間、あたしの意識は闇に落ちて……………

S I D E : ??

チュンチュン…

バツ！

「何…今の夢…？」

どんな夢だったか思い出せないんだけど、何か大事な話をしたよーな…

あたしはベッドから身体を起こすと鏡の前へ向かう。

そこに映っているのは金色の髪と瞳を持った小柄な美少女…つかあたし。

跳ねてる髪を直して…うん、今日もばっちり！

(そう…それじゃそろそろ起きてくれるかな?)

えっ、何今…

ブウン…

「くっ…?!……………そっか、今のが『記憶の擦り合わせ』ってやつか。」

次第にあたしの頭の中に昔の…前世の記憶が蘇って、今のあたしと融合していく。

「…ってか、名前も同じ、外見も髪と瞳の色が違うだけ…手抜きじゃないわよね、まったく。」

今のあたしの名前はヘリナルディア・エチエバルリア～…通称ヘリナ～。

新たなる世界の国の1つ、フレメヴィーラ王国。あたしの(この世界の)父様のマテイアス・エチエバルリアは騎操士つてのを育成する学園の教官をしているみたい。(ふん…なるほどね、面白そうな世界じゃない。)

あと、あたしの家族は母様のセレスティナ、それに…

「リナ姉様、朝御飯のお時間だそうですよ〜!」

そう言つて部屋の扉を開けたのは双子の弟へエルネスティ・エチエバルリア～、通称へエル〜。

あたしよりも更に小柄で髪の色は銀色。見た目は女の子にしか見えないけどれっきとした男の子だ。

「こちらエル!部屋に入るときはノックしなさいってあれほど言ったでしょーが!」

「ご、ごめんなひゃ〜いつ?!」

エルの口を指で引つ張るとエルは必死に謝る。…何時もながらよく延びるわね、エル

の頬つぺた。

「仕方ないわねまったく。∴早く∴はん食べて特訓するんでしょ、行くわよ！」

「あ、待ってよりナ姉様！」

着替えを済ませたあたしは食堂に向かうとその後ろをついてくるエル。

実はこの後、あたしとエルは重大な秘密を共有し、お互いの夢と野望に協力しながら立ち向かうんだけど∴それは次回でね♪

つづく